

パラアイスホッケー 鵜飼選手

特殊詐欺撲滅の力に

(小森孝美)

増加の一途をたどる特殊詐欺被害の撲滅対策に乗り出している多治見署は6日、ミラノ・コルティナ冬季パラリンピックにアイスホッケー日本代表として出場した鵜飼祥生選手(20)=多治見市錦町=を、同対策本部特命署長に任命し、市内のスーパーマーケットで撲滅に向けた啓発活動を行った。

特殊詐欺被害の県内の1月から3月の発生件数は、多治見署が県内22署で最も多。署では、警察庁が推奨する、詐欺電話とみられる国際電話のブロック機能を

警察庁推奨アプリPR

代館長が鵜飼選手の祖父牧田幹男さんで、鵜飼選手も道場で柔道の稽古をしてきた縁から特命署長に任命された。

任命状を受け取った鵜飼選手は「特殊詐欺対策アプリの普及のために少しでも力になれたら」と抱負を語った。二村署長は「困難を克服して日本代表となった強い意志の持ち主。多治見市民から応援されてきた鵜飼選手には発信力があり、アプリ普及のために力添えをしてもらいたい」と期待した。

その後、同市若松町のスーパーマーケットバロー多治見店の店頭で、買い物客らにアプリ導入を啓発するチラシを配布。鵜飼選手は記念撮影や握手にも気さくに応え、啓発活動に熱心に取り組んでいた。

特殊詐欺撲滅対策本部特命署長の任命状を手にする鵜飼祥生選手(左)と二村智署長=多治見署



多治見署特命署長に任命



特殊詐欺撲滅のための啓発活動をする鵜飼特命署長=多治見市若松町、スーパーマーケットバロー多治見店